

## ○新型コロナウイルス感染症(COVID-19)ニュース 第14号 2020.3.31○

### 会員の皆様へ

2020年3月30日

会長 永井幸夫

新型コロナウイルス感染症ニュースも3月27日に第13号を数えました。このニュースは2009年新型インフルエンザニュースを会員向けに発行し、多くの会員から高く評価されたことを踏まえ、福壽岳雄理事を編集長に任命し、2月5日に配信を開始しました。その目的は的確な情報を時宜に応じて紹介し、会員内で情報を共有することにあります。

さて3月29日(日)、30日(月)に仙台市内で新型コロナウイルス感染症の患者が3人確認されました。一緒にパブで飲み会をした関係者から5人陽性(2人は秋田で確認)となっており、クラスターとして感染経路を追っているところです。ヨーロッパ、アメリカなどの状況は時々刻々と深刻化しており、わが国でも風雲急を告げる状況になってきましたので、会長としての活動と考えを紹介し情報を発信することに致しました。

#### □ 3月17日(火)

仙台市感染症メディカルネットワーク会議【会長:永井】

今回は郡 和子仙台市長も出席されたことは市の危機感を反映したものと思われた。

この会議は2009年4月新型インフルエンザがメキシコで発生した時に発足した。行政(健康福祉局長、保健所長ら)と三師会、看護協会、感染症指定医療機関と協力医療機関の医師、ウイルス感染症専門家から成り立っている。賀来満夫先生による最新情報の解説を基に今後の対応について話し合われた。【出席:会長、川村理事、福壽理事(オブザーバーとして)】

#### □ 3月23日(月)

臨時休校中の学校の対応と課題及び新学期(入学式含め)での注意点について話し合い

【市 佐々木教育長】

#### □ 3月25日(水)

新型コロナウイルス感染症対策宮城県調整本部(仮称)の設置についての説明

【県 佐々木医療政策課長】

#### □ 3月25日(水)

第2回仙台市新型インフルエンザ等対策医療機関専門部会【部会長:賀来満夫先生】

- (1) 新型コロナウイルス感染症への対応の現状について
- (2) 疑い患者が増加した場合の帰国者・接触者外来の強化について
- (3) 入院医療体制の強化について

話し合われた。

出席は、行政、感染症指定医療機関、帰国者・接触者外来のある医療機関と医師会(会長、川村理事)

□ 3月27日(金)

第7回仙台市危機管理連絡本部会議【市役所 午前9時 議長:郡 和子市長】

医師会長として出席を要請された。新型コロナウイルス感染症が今後まもなく市内で発生することが予想されること。感染者の20%は重症化するので感染症指定医療機関、協力医療機関等の入院医療体制をしっかりと整備し、残りの軽症者80%(無症状者を含む)は自宅隔離あるいは施設に収容することを考えて対応しないと医療崩壊につながるなどについて話した。(この会議はメディアを入れて公開となった)

□ 3月27日(金)

宮城県新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーチーム会議【県庁 午後6時 会長出席】

《2009年に私が県の感染症対策アドバイザーに指名された。部会長は賀来教授、押谷教授や西村医療センターウイルスセンター長らがメンバー》

- (1) 新型コロナウイルス感染症の患者発生についての報告
- (2) 今後の医療体制について

県内には感染症指定医療機関が7病院計29床ある。(仙台市は東北大2床、市立病院8床)

現行では感染症法に基づきこの29床が埋まったら協力医療機関に入院を依頼するとの説明があったが、仙台市内がいつ感染拡大してもおかしくない時期にある。市内の10床が満床になった時はどうするのかを質問したら県内の指定医療機関、例えば石巻、大崎などへ重症軽症関係なしに搬送するという答えだった。

このようなときはもっと柔軟に考えるべきだと思い、市と協議することにした。感染が拡大したら早急にフェーズⅡに移行し市内の協力医療機関で対応すべきと思われる。

- (1) 宮城県主催会議、イベント等の自粛要請について

- ・ 概ね200人以上のイベントを目安とのことだったが協議の上50人以上と変更になった。
- ・ 私は3月連休に行われた聖火見学に55,000人も集めた県の対応に強い懸念を表明した。

□ 3月27日(金)

宮城県PCR検査調整会議【県庁 午後7時半 会長出席】

- (1) PCR検査の現状等について

県保健環境センター	20検体/日
仙台衛生研究所	20検体/日
県医師会健康センター	20検体/日

今まで187件(うち陽性2件、クルーズ関連含め)

- (2) 今後の検査体制について

- ・ 民間の検査機関の導入
- ・ 対象を拡大しすぎると感染症指定医療機関、帰国者・接触者外来の負担が増大し、医療体制が崩壊しかねないことが課題。

□ 3月29日(日)

第8回仙台市危機管理連絡本部会議【市役所 午後11時】

(1) 新型コロナウイルス感染症の患者の発生について

3月27日(金)に2人の患者を診察した医師がコロナウイルス感染症を強く疑い、帰国者・接触者センターに連絡しPCR検査を依頼したにも関わらず、検査基準に満たないということで断られたとのことである。これは由々しき問題だ。医師がコロナウイルス感染症を疑い、連絡した時にはPCR検査ができるようになっているはずだが、今後このようなことがないように確認していただきたいと強く申し入れた。

なお、このような案件があった場合は至急医師会に連絡いただきたい。

### **編集長（医政広報部長、福壽岳雄）からのひとこと**

今回は永井会長にこれまでの経過をまとめていただいた文章をそのまま掲載させていただきました。特に新型コロナウイルス感染症のPCR検査についてはまだまだスムーズには行われていない点が多いかと思います。仙台市医師会としては仙台市と協力して検査体制等の整備に努めていきたいと思っておりますので、これからもご意見等お寄せください。

終息に向けて皆様の協力が必要な時期です。